

今市地区まちづくり懇話会 “いまいち茶論”

日 時：平成 30 年 6 月 23 日（土）10：00～

場 所：日光市役所本庁舎

テーマ：自然とあいさつが飛びかう今市地区に！

次第：1 開会 地域振興課長

2 挨拶 日光市長 大嶋 一生

3 意見交換

4 その他

5 閉会

《意見交換内容》

参加者 4 先ほどの市長のごあいさつを聞いて、最強の市職員集団をつくと、日光市のために働ける職員集団をつくるというお話をお聞きしまして、私たちも地元のために、何かできる市民になろうと改めて感じたところでございます。今日はこういう時間をつくっていただきましてありがとうございます。

まず、あいさつというのはコミュニケーションの第一歩であり、犯罪抑止力を高める効果もあると言われております。人のぬくもりを感じるだけでなく、日光市が掲げております安心・安全な暮らし、そして、高齢者が増えるという中で、高齢者たちの元気などにも大きな効果が期待できると思っております。学校でいろいろな問題があると報道などでもありますが、その場にあった礼儀正しいあいさつや、相手を思いやる心のこもったあいさつで、いじめのない心の通う学校になって欲しいなど、常日頃思っているところでございます。そんなことを思いながら日頃、徒歩が多いので、すれ違った人にあいさつをしようと心がけておりますが、なかなか声に出せない時もあります。今市地区は、道の駅などで観光客の皆さまにもお目にかかる機会が多く、観光客の皆さまにも「こんにちは」とあいさつができればいいなと思っております。なかなかうまくいきません。そのような中、やはり、地域全体で自然にあいさつができる雰囲気づくりが必要だと思っております。そして、観光客の皆さまにも喜んでいただけるような、自然とあいさつが飛び交う日光市にまで広げられればいかなと、このテーマをいただいて思っているところでございます。それにはまず、推進組織のような核となる組織をつくっていただいて、あいさつの大切さを広げて伝えていくことが必要だと思っております。すでに学校をはじめ、いろいろな組織で、あいさつに関わること、取り組みを行なっているところが多いと、SLに手を振ることもあいさつの1つかなと思っております。この地域でどのような取り組みをしているのか、まず私たち、また、行政の方たちが知ることが重要だと思っております。それによって、今抱えている課題や進め方などが見えてくると思っております。そして、市民、学校、職場、地域などが一丸となって、あいさつ運動を長く推奨していくことが必要だと思っております。私はアンケートにあいさつのモデルは市役所からと書きましたが、これは、あいさつ運動を推進している、ある自治体の市長さんがおっしゃった言葉で、すごくいいなと思ったので引用させていただきました。今日は、ここにいろいろな分野の方々がお見えになっておりますので、いろいろな視点やお立場から、このあいさつに関して、有意義なご意見とかご提案をいただけるのではないのかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

副市長 自然とあいさつが交わせる日光市ということで、色々なお立場の方にもご意見を聞きながら、

参考にして自分の活動につなげていきたいというお話しだと思いますが、今のお話を聞いて、同じような考え方を持っている方がいらっしたらお願いしたいと思います。

参加者3 市長が変わったというようなことで、我々自治会のほうも、少し変わりながらやっていく必要があるのかなと思っています。その中で、やはり、あいさつというのは一番重要なことではないかなと思っています。すべての人たちが、限りなくあいさつをしていく。オギャーと生まれてから亡くなるまでと言ったほうが一番いいのかなと思うのですが、その中で、自然とあいさつができる体制をつくるということが、一番重要になってくるかなと思います。非常に難しいことだろうと思うのですが、最初に家庭ありきで、家庭の教育、あいさつするというようなことを、家庭のお父さんお母さんたちが、まず見本を示していただきながら、それが小学校、中学校、高校と、また、大学、職場、一般の地域の中に行っても、自然とあいさつができるようにするという事は、そういった基本がなければなかなかできないことではないかと思っています。その中で、やはり、最初の家庭の指導というのが、大切ではないかなと思います。我々はウォーキングをしています、学校の中では生徒さんが良くあいさつをしますし、職場の中でも、あいさつをするのだと思うのです。ところが一歩外に出てしまうと、あいさつが疎かになってくるのかなと思っています。同じウォーキングする仲間などでも、あいさつをしないで通り過ぎていく人たちが結構いるのです。そういう人たちは、なぜあいさつできないのだろうと思うのです。何回か行き会う方がいるのですけど、何回かこちらのほうであいさつしても、返事が返ってこない方もいらっします。そういうものは少し特異なのかなと思いますけれども、そういうふうな自然とあいさつができるためには、やはり、一番最初が肝心なのかなと私は思っております。そういうふうな基本ベースを重視しながら、それぞれ社会の中であいさつをすることによって、この地域が良くなる、学校が良くなる、社会全体が良くなるということが当然ありえるわけです。本当に心のこもったあいさつができるかどうかということも、1つの懸案だと思いますけれども、そういうふうにするためには、それぞれの家庭、先生、職場の上司たちとか、そういう人たちが真剣に取り組むということも、必要になってくるのではないかと思います。また地域の中、市の中でも、そういったあいさつをする運動の定着をさせるということも、機会を捉えて、例えばそういうようなあいさつを指導するような講演なども開いたらいいのかなと思います。まず、そういったためにも予算化をする、市が助成するという事も必要なかなと思っています。標語とかステッカー、チラシをつくって、意識を高揚させることも必要になってくるだろうと思います。そういうことで、この今市地区が皆さんの協力によって、あいさつのできる良い地域になって欲しいと私は思っているわけです。これが全体的に日光市の全ての部分でのあいさつに繋がってくるだろうと思います。

副市長 今、おっしゃっていることは、家庭教育の大切さということからスタートして、学校教育さらには地域ということなので、教育長お願いします。

教育長 学校の現場、それから社会教育ということで、皆さんが認識されているように、学校では、あいさつ運動、あるいは、色々な学校のテーマの中で、あいさつが飛び交う学校にしようとか、あいさつというところを意識したスローガンが多く設けられています。来校者が学校などを訪問すると、小学校、中学校問わず、爽やかなあいさつが各学校で展開されていると思うのですが、一番気になっているところが、

小学校の吉田有希ちゃん事件以来十数年経ちますけれども、知らない人へのあいさつということで、やはり、危機的な管理という意味では、そういう指導も合わせてやっているところもあると思います。その辺の兼ね合いというのは非常に難しいと思うのですが、実は今の学校は、ボランティアとか色々な活動で、地域の方が学校に入って見ていただく、子供たちと関わっていただく機会が、以前から比べると非常にどの学校も増えています。学校支援ということで、色々な分野で、地域の方が学校に入っていただいています。そういう方とのつながりが子供たちとの間にできますので、子供たちにとっても知らない大人、社会の方がたくさんいると思うのですが、そういう地域の方が入ることによって、地域の方との結びつきが学校の中でできてきます。そういった方が、外へ出るということになると、外でも顔見知りということで、少しずつですけれども、あいさつの輪というものが広がっていくのかなと思います。それから、家庭教育につきましては、市のPTA 連合協議会などがありまして、それぞれ色々なテーマで、家庭教育の充実ということで、様々な課題について取り組んでいるところなのですが、直接あいさつとは関係ないのですが、ノーメディア、要するに家族のコミュニケーションを大事にしましょうということで、様々なメディアからの悪影響を断ち切ることで、メディアに触れない時間をつくって、親子で会話をしましょうという取り組みを、全市・全校・各PTAが取り組んでいるところです。PTA 活動の中でも、家庭教育を通して、あいさつを啓発していくということも、今まででもやっていると思いますが、そういったことも合わせて、学校と地域と家庭というあたりで、取り組めればいいのかと思います。やはり、輪を広げていくためには、地域の方々があいさつをする姿を子供たちが見るとか、色々なかたちであいさつの風景とか、そういったものが各地域で少しずつ広がっていく、子供たちも学校内だけでなく、一度学校で教えてもらった大人の方に、外に出ても会った時にあいさつができる雰囲気、風土、そういったものは時間がかかるとは思います。まずは、学校とか地域そういったところから、しっかりとあいさつのできる雰囲気、風土といったものを、広めることが必要ではないかと思っております。

参加者 6 先ほど市長のあいさつの中で、今日のテーマは、案外やさしいよねというようなニュアンスでおっしゃられましたけど、私は案外やさしいようで難しいテーマだなと最初思いました。これは、一朝一夕にできる運動ではないので、地道に一つ一つ積み重ねていかなければならないものかと思いました。私は、民生委員をやらせていただいて19年になるのですが、最初に民生委員を受けたときに、民生委員の信条の中で、地域の実情を把握しましょうという信条がありますが、地域に住んでいる方、特に高齢者の方がわからなかったわけです。恥ずかしいのですが、行き会った人、すれ違った高齢者の方に、あいさつをしようと思ひまして、こんにちとは声掛けしました。お年寄りの方は意外と反応が良くて、返ってくるのです。2~3回やっているうちに、顔見知りになりまして、それが民生委員活動にすごく役に立ったことを覚えています。先ほど教育長が言いましたように、今、子供さんを取り巻く環境でいろいろな問題が出ています。やはり、言葉掛けは凄く配慮が必要だと思うのですが、私は第三小学校の学校支援ボランティアに入っていますので、5年生の家庭科の授業に2時間続けてやるのですが、続けて行っています。行くことが苦でなく楽しいのです。帰って来ると元気をもらって、行って良かったと思うので5~6年続いています。先ほど言われたように、学校内であいさつを交わしているような雰囲気が、外でもできればいいなと常々思っているところです。私は、一週間に4日ほどウォーキングしています。歩いていますと、夜なので顔は見えないのですが、姿勢好で大体わかるので男の方も女の方も同じようなメンバーで、こんばんはとあいさつすると、ほとんど返ってきますが、男の方は2割ほど返してくれない方がいます。

たまに向こうから言葉を掛けてもらおうと、本当にうれしいのです。最初は恥ずかしいのですが、その第一歩が重要ではないのかなと思います。慣れは、良くも悪くも平気になるもので、名前も分かりませんがあいさつを交わしております。あと1つは組織づくりが重要ということでしたが、あいさつは、家庭、団体、学校はもちろんのこと、一般市民あらゆる方面から、このような運動をやっているということを知ってもらうことが、広がるのに大切だと思いますので、そういった組織づくりは、ぜひ、やったほうがいいのではないかなと思っています。以上です。

副市長 家庭教育ということで、そういった観点からご意見ありますか。

参加者9 皆さんと少し違うことを考えていたのですが、子供からというよりも、今のお話を聞いていると、大丈夫かなと思うのですが、まずは大人からです。家庭も、そして社会も、そして、信頼できる大人にならないと、あいさつはもらえないのかなと思います。子供だってある程度の年齢になると、怖いとか、いろいろなことが感覚でわかると思うので、誰にでもあいさつできるのが賢いのではないと私は思っております。しっかりと自分のことを考えて、君子危うきに近寄らずでもいいのですが、時と場合も考えて、あいさつができるようになるためには、まず、親を見習う、ご近所の人を見習う、そういう環境で育つと、きちんと考えてあいさつができるようになる大人が増えていくのだと思います。皆さんのあいさつについてのお考えはとてもいいと思います。観光地であるというのがありますが、子供たちのしつけとはやはり別ですよ。観光地という意味では、大人の感覚で、皆で手を振るとするのは、大事だと思います。

副市長 家庭教育やしつけのお話をいただいたところなのですが、まさに子育てをしている世代の方のお話しも聞ければと思います。

参加者5 学校では、子供たちはものすごくあいさつが良いと、皆さんもおっしゃってくださり、ありがたい教育をしていただいていると思っているのですが、やはり、家庭でもあいさつを指導するにあたっては、まず大人の私たちが、見本を見せなければいけないなというところもありまして、まずは、親が子供の前でもあいさつをしていかなければいけないなと思います。親があいさつをしている姿を見れば、子供たちも自然に、自分で判断して、この人はあいさつができるとか、そういうことになればと思います。PTA会長が犯罪を起こしたような事件を耳にしてしまうと、少し難しいところもありまして、学校の中ではあいさつはできるけれども、外でのあいさつの指導というのは、どのようにご指導していただいているのでしょうか。

教育長 両面で指導していると思います。やはり、知らない人にもあいさつをするという指導はできないので、先ほど言いましたように、知っている方とかお世話になっている方には、もちろんあいさつしましょうということは、学校で指導していると思います。ただ、子供たちは非常にシャイなところがあり、学校内だとみんな仲間ですし、先生も毎日顔合せているので、あいさつしやすい環境になっていると思うのですが、やはり、外に出てしまうとできないこともあると思います。地域の大人の方がおはようと言っても、おはようと素直に返ってくる子ばかりではないと思いますが、道で子供さんを見かけたとき

に、おはよう、こんにちはと何回も同じ方から声を掛けられていれば、子供たちも自然に返していけるのかなと思います。子供たちにとっても、自分から思い切って声を出すというのは、非常に抵抗があるのだと思うのです。そういった意味では、地域の方々から声を掛けていただき、子供たちにあいさつができるような対人関係、そういったところを繰り返していくことで、子供たちは声を出しやすくなるのかなと思っています。先ほど話があった学校ボランティアですが、ボランティアさんが入るといのは、両者にとってすごくメリットというか、プラスなのです。高齢者の方に伺うと、学校へ行くのは、今まで少し敷居が高かったのだけれども、行ってみるとすごく楽しかった、子供たちと一緒に活動ができて元気になりました、また行きたいという声を非常に多くいただいております。また、学校にとっても地域の方が入っていただくことは、専門の先生も少ないなか非常に助かります。地域の方が学校に入っただけということは、学校にとっても非常にプラスですし、地域のボランティアの方々にとってもプラスだと思いますので、これは大事にしていきたいし、各学校で今どんなことができるか、どんなことで地域の方に入っただけかということ、色々なかたちで検討しながら、それを充実させようという動きが各学校であります。あいさつとは離れたところなのですが、そういう地域の方との交流が多くなっていることが、非常にプラスになっているということをお話させていただきました。

参加者 5 大人たちがあちこちであいさつを交わしている姿を子供が見れば、そうなんだ、あいさつは気持ちいいなと子供たちも見て学ぶことができるので、やはり、私たちからそれはやらなきゃいけないなと思いました。こちらの課題をいただいてから、私は、あちこちであいさつをするようにしましたら、知らない人もあいさつをしてくださるようになり、すごくうれしい気持ちになりまして、相手の方もうれしい思いがあったのかなと思うのです。そういうあいさつの輪を広げていくことによって、皆が気持ちよく、しかも自然にあいさつが飛び交うまちなるかなと思いますので、やはり、この活動を市長さんとか皆さんで広めていただいて、市民の皆さんが意識していけば、あいさつが飛びかうのではないかなと思います。お願いします。

副市長 安全対策という話も若干あったと思うのですが、その辺の観点でいうと、PTAの立場から見た子供たちのあいさつというところで、ご意見をお願いします。

参加者 11 先ほどもお話がありましたが、第三小学校では、地域の皆さまにボランティアとして、かなりの人数の方に入っただいております。全国的に見てもまだまだ数が少ないようで、この10年間の功績を表彰いただきまして、文部科学省のほうへ行ったときに、全国のコーディネーターの皆さんと話したときに、やはり、後継者が少ないということで、結局そこを増やさないと顔見知りができないということで、子供たちも知った顔があれば、外に出てあいさつできるのかなというのもありまして、ボランティアの確保というのが、やはり教育長もたぶんその辺は考えているのではないかなと思っています。学校支援ボランティアの方々へ、人材確保のために、多分ボランティアで一生懸命やっている方は、そういうのは必要ないというふうにおっしゃるかもしれないのですが、やはり、人材の確保という意味で、有料の指定ゴミ袋をプレゼントしてはどうですかということを書かせていただいたのですが、その辺、産業環境部長いかがでしょうか。

産業環境部長 今回ボランティアへの特典ということで、有料の指定ゴミ袋をプレゼントしてはどうかということなのですが、あくまでも今回のゴミ袋につきましては、手数料を納めていただくというところですので、こういったプレゼントにはそぐわないのかなと思います。

参加者 1 1 例えば、ボランティアをポイント制にしたりして、ポイントがたまってくると、市のほうで何かの特典といいますか、考えていただいてもいいのかなと思います。そうすると人材も増えて、どんどん学校内のこの地域の方と、子供たちの触れ合い、どんどん広がっていくと思っています。今市地区に限ってだと思うのですが、やはり、自治会や育成会に入らない保護者が徐々に増えてきている現状があります。自治会長からご指摘があると思うのですが、恥ずかしいことです。私たちは、学校でも入学式等に、自治会・育成会に所属しましょう、地域ぐるみで子育てをしましょうということをするようにしているのですが、これも、日光市におかれましてと書いてしまったのですが、毎年6月に児童手当申請の現況を書いて送るのですが、そこに、所属自治会を書くというか、そういう意識付けということで、書かないともらえないという感じをおわすと言いますか、その辺の意識付けができればと思います。児童手当現況届の返信率はどれくらいですか。書かないともらえないのですか。

副市長 自治会の未加入の問題については、この辺の意識付けをどうしていくかということが、今も課題となっております。

地域振興部長 今のお話の中で、自治会への加入率がイコール子供たちとの接点を育むというか、そういうところが要因になっているというのは、その通りだと思います。今は個人情報の問題もありますから、自治会の中でお子さんを把握しないと、そもそも育成会に繋がらなかつたり、地域の行事さえも知らされなかつたりというのが現状としてあります。やはりベースとして、自治会の加入率を上げないといけないと思います。そのため、4月の対応として、自治会活動のハンドブックを転入者に配布したところであり、何らかのかたちで、加入率を上げるための側面の部分であるとかをやっていかなければならないと認識しています。但し、どの程度効果を表すかというのは、ある程度長い目で見たりしないとわからない面もあります。ただ、自治会加入は強制力という部分ではなかなか難しい面があり、先ほどの児童手当の現況届ですと、微妙なところですが、自治会活動というのは、地域の一番基礎的な団体ですけれども、そこには様々な要素が入ってくるので、個人の主義主張といった側面からは、相容れないところがあったりするので、強制力が持てないということが非常に悩ましいところです。しかしながら、最初に言いましたように、どうしても行政として加入率を上げていくべきものと捉えていますので、何らかのかたちで、先ほどのパンフレッドなども1つの手段ですけれども、様々な機会を捉えて、加入に向けた努力をしていきたいと考えております。

副市長 地域の活性化の中心は、商店会というのもあると思いますので、地域を支えていらっしゃる方の意見ということで、次の方お願いいたします。

参加者 7 商店では、あいさつというのは基本なのですが、あいさつはなかなかしづらい、する人としなない人がはっきりしている時代かなと思っております。子供たちは登校する際、商店街を歩くのですが、や

はり、大人のほうから掛けてあげることが重要なかなと思うのです。登下校時に合わせて沿道掃除とかに出て、基本的に顔なじみにならない限り、あいさつができないと思います。見守りも含めて、そういうことは重要なのかなと思います。そういう意識付けをするのに、先ほど言った組織的なものとか、ポスターやチラシで、啓発していくというのも重要なかなと思っています。昔、今市地区というのは、市民体育祭等もありました。子供たちと地域の人と一緒に交わる部分があったのです。最近では地区にもよるのでしょうか、そういうものが実際やっていないのが現状なので、それに関わるものとして、例えば屋台祭りとかもあるのですが、そういうのではなくて、小中学生、地域の人たちと一緒にできるレクリエーションなどができるといいなと思っています。ニコニコ本陣ができて、まちなかは活性化していると思うのですが、実際、まちなかの子供たちが少なくなっている実情がありまして、私の町内は一人いるか二人いるかという世界で、育成会なども活動していません。他地区の小中学生との交流や、顔を合わせる機会をつくるのが重要ではないかと思います。それに合わせてポスターを貼ったり、そういうことをやることによって、地域の安全とかに繋がるのではないかと思います。あと、山のほうでバーベキューをやったりしていますが、そういったものが今市地区でも何かできるといいなと思っています。

副市長 今のご意見に付け加えたいことがあればお聞かせください。

参加者2 実際、自治会間で交流しているときというのは、隣同士の町内とか、いろいろな町内の人たちと顔なじみになって、あいさつをしたりします。そういった意味で市民体育祭のことを書かせていただきました。先ほどの方も言われたように、一堂に集まって何かやるというのは、今市地区では、今、瀧尾神社のお祭りとか、屋台祭りをやっているわけなのですが、市民同士が一体化しているかということ、あまり一体感がなくて、バラバラにやっている雰囲気があるので、それをどうしたら一体感が持てるかということで、市民体育祭を例に出しました。運動にすれば、何か簡単なものでいいと思うのです。そういったものを通して、子供と大人と、高齢者が一堂に集まるような場所をつくっていただきたいと思います。バーベキューとまではいなくても、焼そば大会みたいなものを開いて食べるとかすると、一体感が出るのではないかなと思うのです。そういう大人と子供が一堂に集まれるような行事をつくっていただきたいなと思っています。

教育次長 地域の体育祭の話につきましては、事前にご質問をいただいたので、調べさせていただいたところ、今市地区は平成10年ごろまでは実施しておりましたが、参加自治会の減少等により廃止になってしまったと伺っています。現在、落合、豊岡、大沢、塩野室地区では、それぞれ体育祭をやっており、それは、地区体育協会と地区公民館の共催という形で実施しております。今市地区では、体育祭を廃止した後、グランドゴルフ大会やラージボール卓球大会など、いくつかの大会を開催して人が集まっていたくような対応はしております。ソフトバレーボール大会においては、お子様から高齢者まで含んだチームを編成していただき、参加いただいているというような情報を得て、今日参りました。ただ、やはり、皆さんに周知して、様々な世代の方に集まいただくということは大切だと思いますので、ご提案のあったような中身につきましても、体育協会今市支部とか公民館で、少し相談が必要なのかなと思います。皆さんそういうところで集まって、顔見知りになって、このあいさつに繋がるということは、確かにあると思いますので、今市公民館とも相談してみたいと思います。

副市長 体育祭とかお祭りとかのイベントに限らず、日光地域だと長年日光けっこうフェスティバルを開催していますが、観光客の方を対象にしたものではなく、市民の方が多く参加できるような催しものだと思っています。合併して、地域の中でなかなか相互の交流が図れていないという課題がありまして、去年は、足尾のお祭りに、三依の方に参加していただくといった交流を少し始めております。日光けっこうフェスティバルとかも、そのようなことができるかなど、少しずつ交流を目指したものを取り組んでおります。地域ごとの垣根というか、境目というのをなくして、全体として一体感の持てるような集まりごとができるばいいなと思います。そのような方法も1つあると思っています。色々なご意見をいただいておりますが、独自の発案と言いますか、団体の関係の方だと思うのですが、SLの運転開始をきっかけとか、観光のおもてなしの切り口からあいさつができるようなお話をあげていただいた方がいらっしゃるのをお願いします。

参加者13 うちが観光に特化した協会なのですが、あいさつは最大のおもてなしだということを大前提に、職員にも教育しております。その中で、今お話しがあった通り、SLの運行を、単純な電車の運行に留めることなく、地域の活性化や観光資源にしたいということで、プロモーション協議会というのをつくっております。その中で、まず、第一にはじめたことは、誰でもできる手を振ろう運動なのです。これは、日光に来たお客様に、市民の方や通りすがりの方が手を振ることによって、乗客と市民が一体化を図れる、まさにあいさつかなというふうに考えております。それを始めるきっかけというのは、日光市の魅力は、社寺や自然とたくさんありますが、市民の力が市民の魅力アップというのが、一番日光の力になると、これがない観光地は多分駄目になるだろうというような観点で進めております。その他に、耕作放棄地を利用して、これも住民の方に協力していただいて、自治会による花いっぱい運動とか、当然、沿線から見えるゴミ拾いとか、そういった地道な活動も一緒にやっております。7月15日に予定しているのは、約200名の参加を求めています。うちわにご自分の希望等を書いてもらって、みんなで手を振ろうというような活動も考えております。大前提は、今回のテーマにあります、あいさつがしっかりとできるまちづくりというようなことを考えております。そう意味では、近隣のイベントも含めて、地域の皆さんのご協力をいただければありがたいなというふうに考えております。以上です。

観光部長 事前にいただいておりました中で、市において、まちおこしの拡散というようお願いというのもございます。市としまして、今ございましたように今日のテーマはあいさつですが、SLに手を振るといふものを含めまして、情報等をいただいたものに関しましては、これまでも一緒にやってきておりますが、情報の拡散を一緒にしていきたいなと思います。

副市長 おもてなしの大切さというものを含めて、観光の方でも協力できることはやっていきたいなということだと思います。次に、あいさつ運動を展開する中で、のぼりとか旗とかそういったグッズとかが有効なのではないかということ、あげておられる方がいらっしゃいますのでお願いします

参加者12 個人的な見解を書かせていただきました。現在、商工会議所ではおもてなし、観光客を温かく迎え入れましょうということで、年に数回接客のセミナーだったり、日光検定などという取り組みも

やっているのですが、特に、あいさつに関しては、正直いって取り組みは行なっていないのですが、個人的な見解では、皆さんもおっしゃっている通り、あいさつは非常に重要であって、ビジネスの場においてもお客様との初対面では、こんにちはであったり、おはようございますからスタートするのが基本だと思っているのです。私自身も、なかなか知らない人にあいさつすると、今こういう時代なので不審者と間違われてしまうのではないかとこの部分もございまして、一歩踏み出せないこともあったりします。この問題は、非常に大きな問題で、これといった解決策というのではないのではないかなと思うのですが、各家庭や企業内であったり、近所同士だったり、小さいところから声掛けのあいさつ運動を始めていったらどうかと思います。顔を知らない人とあいさつするというのは、難しいというのが正直なところだと思うのです。顔を知っている企業内であったり、家庭内であったり、組内同士であったり、顔をわかっている人同士で始めるような仕組みができればいいのかなと思います。今回、あいさつ運動を取り組んだらどうでしょうかということで、書かせていただいたのですが、この名称については、例えば、今市地区のあいさつ運動であったり、ニコニコあいさつとか、そういう名称で取り組んでいって、地域に広げていくためには、やはり、のぼりとか旗などのグッズなども揃えていくと有効なのかなと思って書かせていただきました。

教育次長 あいさつ運動ということで、教育委員会に関わる部分で生涯学習のところでは、今のところ事業はないです。そうは言っても、あいさつというのは大切だということで考えています。先ほど教育長からもありましたように、家庭教育学級とか生涯学習のいろいろな講演とかもありますので、そういうところで何か活用できるようなことは、考えていきたいなと思います。ただ、運動自体は、今のところ、こちらのほうでやっていくことになるかと思っています。

地域振興部長 あいさつ運動を推進していくためののぼりとか、前提としての推進組織体制みたいなものをつくるというご提案があったと思います。また、助成のお話もありました。自然にあいさつ、ということで、その自然というところに向かうまでには、やはり、何かしらの支援策であるとか、助成であるとか、前を向いて進めていく組織体制というのが必要になるのかなと思います。最初は、まず一歩踏み出して、そのあと自然に流れていって雰囲気広がって、そういうものが醸成されればいいのかと思います。そういった意味で、自治会や地域などと一緒に、何かしら行政のほうでも、旗振り役になって進めていくという点では、現在、自治会で行うまちづくり活動支援事業というのがありまして、今市地区でも、これまで何件か取り組んでいるものがあります。地域全体での総意として「こういうものを作っちゃいましょう」、「あいさつ運動を展開しましょう」、それについては、このような組織、このような関係団体にも入ってもらって、組織体制を起ち上げた上で、「こんなことが必要です。」というような話がまとまってくれば、そういう支援事業みたいなものも、どんどん使われていくのかなと考えますので、その辺もひとつ参考にしていただければと思います。

参加者3 少し繰り返してしまうようで申し訳ないのですが、今、手を振る運動というようなことでいろいろ出てきていますが、私はこの間黒部のほうに行ってまいりまして、トロッコ列車に乗って来たのです。その時にやはり、手を振る運動という感じで、手を振っていただいて、おもてなしをいただいたわけなのです。旅館でもそうですよね。東武のSLに、そういうようなこともやっているということなので

すが、見える化というのが、一番必要なのだらうと思います。こういうところに出てくる人というのは、皆あいさつのできる人だと思うのですが、そういうイベント会場とかそういうところに出てこれない人、出てこない人が、意外とあいさつできない人が多いのではないかなと思います。そういうところを考えてみれば、やはり、積極的にそういう手を振る運動とかあいさつの部分で、あいさつをしない人に、何か印象付けできるように見える化で、少しずつあいさつができる地域をつくっていったほうがいいのかなと思います。急にはできないと思いますので、自分の隣にいる人が全てあいさつのいきかうことができるような体制づくりも必要かなと思います。昔、学校でやっていた市民体育祭とかもいいことだと思いますが、一回やめたものをまた立ち戻すということは大変なので、少しずつ小さいイベントをやりながら、地域の人たちに、あいさつの運動を定着させていくということが必要だと思います。あいさつのできる方に、あいさつ運動というのが必要でないのであって、あいさつのできない人をどれだけ底上げしていくかということが、一番重要な部分だと私は思っております。

副市長 あいさつにもう1つ付け加えて考えている方がいらっしゃるので、ご発言をお願いします。

参加者14 社会福祉協議会とあいさつで検索をすると、全国的にいくつか活動がありまして、その中でプラスワン活動などということで、ただ「おはよう」とあいさつをするだけではなくて、最近学校どうとか、相手を思いやるような言葉を1つプラスすることで、相手の思いやりとか、そういったものを示すというような活動をやっていたので、そういったことが、今市地区でもできるといいのかなと思います。課題の中で、交流について書かせていただきました。社会福祉協議会でつながりの再構築というところで、小さな単位のサロンとか、集まれる場なんてことをやっているの、こういったところも、あいさつの場というようなことでもやっていけるかなと思って、書かせていただいたところであります。

参加者15 私は民生委員として、高齢者の立場でお話しさせていただきたいのですが、高齢者の家庭を見守り活動をして気が付くことは、近所付き合いが上手くいっている人と、全然近所との付き合いがない人の差が大きいのです。特に男性の高齢者の方は、どうしても社交性に少し欠けていて、閉じこもりがちになってしまうのです。女性の方は意外と、表へ出て皆さんと交流を持っている方が多いのです。高齢者の孤立化という問題を考えると、やはり、隣人同士が笑顔であいさつをして、何回もあいさつを繰り返すことによって、そこに信頼感ができて、誰かが見守ってくれて、いつも傍に誰かがいてくれるという安心感ができると思うのです。ですから、人と人のつながりが、一番大切なのではないかなと思うのです。高齢者の方はいろいろ経験しているので、思うようにあいさつが返ってこなかったりしますが、私たちが何回も回を重ねて訪問することで、やっと笑顔が見られる方もいるのです。一度で諦めないで、何回もあいさつを繰り返していくことによって、人と人のつながりが生まれます。それがあいさつの一番のことなのかなと、常々考えております。

参加者9 ご近所のお話がありましたが、今、住宅地の中の小公園で、荒廃が目立っているところが多いと聞いています。私たちの住んでいるところにもあるのですが、草刈とかは自分たちでできますが、ベンチの座るところが心もとないという状態なので、そういうところを自分たちでというのはなかなか大変なので、こういう場所というのは市内にたくさんあると思うのです。そういうベンチは、今まで子供が遊

ぶのにつくったのだと思うのですが、これからは、高齢者がゴミ捨てに出た時とか、その辺で行き会った時とか、一緒にお話しする場として提供できるようにしたら、少しはお役に立つのかなと思いますが、いかがでしょうか。確かに、引きこもるといふ言い方もありますが、誰かの家に行ってお茶を飲むなどというのは、これはもう長年付き合った田舎の話で、新興住宅地などではそのようにいきませんから、そういうところの人たちが、少しずつお近づきになる役に立つのではないかと思いますので、考えていただくとありがたいと思います。

副市長 まち歩きをした時に、一服するために座れるような場所をつくるということについては、今、地域振興部のほうで進めている事業があります。地域の中でまちづくり事業検討会というものを組織して、地域の活性化につながる事業を、地域の皆さんに考えていただき、市に対して事業提案していただいて、それを市のほうが予算化し、現実実施をして地域の中に溶け込ませていくという事業があります。そこで、昨年度、藤原地域と日光地域ではベンチを設置する事業を行っています。藤原地域では幸せのベンチという名称になっています。名称は工夫をして皆さんで付けたのですが、ベンチの背中のところ、マークを貼ってみたりとか、普段は観光客などももちろん座ったりするのですが、そのようなベンチを提案していただくと、対応することも可能という事業もあります。

参加者 9 私たちのところにはベンチはあるのですが、座ったら大丈夫なのかなという状態なのです。花を植えたりとかは、組内でお金を出し合って、毎年組長さんが面倒を見て花を植えたりしています。そういう時も組長さんが主になってやるのですが、やはり、草を取っていれば一緒に手伝ってお話が弾んでいます。そういうこともありますので、その椅子が使えるようになれば、もう少し輪が広がるのかなと思いますのでよろしくお願いします。

副市長 決して市のほうでできないということではなくて、それを設置した上で、管理の面はそれぞれの自治会でやっていただくとか、そこは、提案いただければいいのかなと思っております。

参加者 1 無理のない市民にやさしいあいさつ運動を展開しようということで、全会一致で提案をさせていただきました。もちろん先ほど市長の話の中で、職員のやる気が大切ということで申されましたが、加えて市民のやる気が大切なのです。そういうことで、あいさつ運動については、今市地区においてやる気十分であります。これからどういう方法で推進するのかについては、様々な経緯がありました。私たちも、もう少しこのあいさつ運動について、勉強、検証をして、今市独自の方針というか方策を立てて、推進したほうが効率的に推進できるのではないかと、そういう考えを持っております。それには、もちろん市を始め、学校、多くの職場、団体等の協力がなくてはできませんので、そういうかたちで進めた方がいいと思います。まずは、今市地区から大嶋市政のきらりと光る市民運動として展開をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

市長 色々な観点から、様々なご意見をいただきまして、本当にありがとうございました。事前にこういうことがありますと職員から説明を受けた際に、実はお恥ずかしい話なのですが、おやじのことを思い出しました。若いころ酒を飲みすぎて、寝ぼけた顔をして朝会社に行くと、先輩の職人さん達がたくさん

いるのですが、あいさつができなかった私は、よくおやじに怒られました。お前はあいさつがなっていないと、20代後半まで怒られていました。そのようなことを、このテーマをいただいた時に思い出しました。

市長に当選をさせていただいて、登庁させていただいてからは、極力、職員や市民の皆さんを問わずに、階段を上がって来る途中、行き会った皆さまには、あいさつをするように心がけてはおります。まずは、それぞれの職場、家庭、地域で、あいさつというものにしっかりと意識を持って、どんどんあいさつをしていくというのが大切だと思います。ここにいる部長も、そういう意識で朝から職場で活動する、もしくは地域に行って市民の皆さんと色々な話をする時に、常にまずは私たちがしっかりとあいさつ運動をしているつもりで、毎日あいさつをすることが大切だと思います。

そして、先ほど、ほぼキックオフ宣言になると私は感じたのですがけれども、協働のまちづくりをやっていく、非常にありがたいご提案だと思っております。先ほど地域振興部長からも、まちづくり活動支援事業の1つの案として話がありましたけれども、何らかの方策を探りながら、少しずつ前に進めていけるように頑張っていきたいと思っています。最初にごあいさつ申し上げた、やさしいというのは、細かい数字の答弁は伴わないという意味で申し上げさせていただいたので、決してこれを広めることがたやすいと言ったわけではございませんので、ご理解の程よろしくお願いをしたいと思っています。

学校現場では、先ほど教育長から色々な難しい問題もありましたが、とにかくあいさつが飛び交うまちに、寂しいまちはないと思うので、しっかりと日光のまちを世界に発信する、そして、先ほど私が申し上げましたように、市民の皆さまには、本当に誇りと自信を持ってこの日光で生きていっていただきたい、あいさつが飛び交うかどうかというのも非常に大切な部分だと思いますので、その辺をお含みして公務にあたってまいりたいと思います。本日は、色々なご意見いただきまして誠にありがとうございました。